

はじめに

AWS 認定クラウドプラクティショナー (CLF-C01) 試験は、AWS クラウドに関する知識とスキルをお持ちの方を対象としており、AWS クラウドについての総合的な理解を効果的に実証することを目的としています。特定の技術的役割 (ソリューションアーキテクト - アソシエイト、デベロッパー - アソシエイト、SysOps アドミニストレーター - アソシエイトなど) を扱う他の AWS 認定とは独立した試験です。

この試験では、受験者に以下の能力があることを証明します。

- AWS クラウドの概要および基本的なグローバルインフラストラクチャについて理解する
- AWS クラウドの基本的なアーキテクチャ原理を定義する
- AWS クラウドの価値提案について説明する
- AWS プラットフォームの主なサービスと一般的ユースケース (コンピューティング、分析など) について説明する
- AWS プラットフォームの基本的なセキュリティとコンプライアンスの側面、および共有セキュリティモデルについて説明する
- 請求、アカウント管理、料金モデルを理解する
- ドキュメントまたは技術サポート (ホワイトペーパー、サポートチケットなど) のソースを特定する
- AWS クラウドにおけるデプロイと運用の基本的かつ重要な特徴を説明する

推奨される AWS の知識

受験者は、テクノロジー、マネジメント、販売、購買、ファイナンスの分野で最低 6 か月の AWS クラウド使用経験があることが推奨されます。

推奨される IT 全般の知識

受験者には、IT サービスの基本的な知識と、それらのサービスの AWS クラウドプラットフォームでの使用に関する知識があることが求められます。

試験準備

本試験に向けて、以下のトレーニングコースおよび資料を活用して準備できます。

AWS トレーニング (aws.amazon.com/training)

- AWS Cloud Practitioner Essentials [コース](#)
- AWS Technical Essentials 1 [コース](#)
- AWS Business Essentials [コース](#)

AWS ホワイトペーパー (aws.amazon.com/whitepapers) Kindle、.pdf およびその他の資料

- アマゾン ウェブ サービスの概要 [ホワイトペーパー](#)、2017 年 4 月
- クラウド向けのアーキテクチャ: AWS のベストプラクティス [ホワイトペーパー](#)、2016 年 2 月

- AWS 料金体系の仕組み[ホワイトペーパー](#)、2016 年 3 月
- クラウド内のウェブアプリケーションの所有（および非所有）の総コスト[ホワイトペーパー](#)、2012 年 8 月
- AWS サポートのプラン比較[ウェブページ](#)

試験内容

回答タイプ

試験の質問には以下の 2 種類があります。

- **択一選択問題**: 選択肢には 1 つの正解と 3 つの不正解（誤答）があります。
- **複数選択問題**: 5 つの選択肢のうち、2 つが正解です。

文章に最もよく当てはまるもの、または質問の回答となるものを 1 つ以上選択します。不正解の選択肢は、知識やスキルが不十分な受験者が間違えやすいもので構成されています。多くの場合、試験の目的に応じた出題分野に当てはまる、もっともらしい回答になっています。

回答しなかった場合は不正解とされるため、推測でも答える方が有利です。

採点対象外の内容

試験には、採点の対象にはならない項目が含まれる場合があります。これは統計的な情報を集めるために試験に組み込まれています。フォーム上でこれらの項目を区別することはできませんが、スコアに影響を与えることもありません。

試験の結果

AWS 認定クラウドプラクティショナー（CLF-C01）試験の結果は、合格または不合格のいずれかになります。試験は、認定業界のベストプラクティスとガイドラインに従って、AWS プロフェッショナルにより設定された最低基準に達しているかどうかに応じて採点されます。

試験結果は 100～1000 点の範囲のスコアでレポートされます。最低合格スコアは 700 点です。スコアによって、試験での全体的な成績と合否がわかります。スケールドスコアモデルは、難易度にわずかな違いのある複数の試験形式のスコアを平均化するために使用されます。

スコアレポートには各セクションレベルでの成績の等級表が掲載されています。この情報は、試験成績に関する全体的なフィードバックを提供することを目的として設計されています。試験では補填形式のスコアモデルが使用されるため、個別のセクションごとに「合格」する必要はなく、試験全体で合格することのみが求められます。試験の各セクションには特定の重み付けがされているため、一部のセクションでは質問数が他のセクションよりも多くなっています。表には、長所と弱点を示す総合的な情報が含まれています。セクションレベルのフィードバックは慎重に解釈するようにしてください。

内容の概要

この試験ガイドには、比重、出題分野、および試験の目的のみが記載されています。試験の出題内容全体を記載しているわけではありません。出題分野と比重を以下の表に示します。

分野	試験における比重
分野 1: クラウドの概念	28%
分野 2: セキュリティ	24%
分野 3: テクノロジー	36%
分野 4: 請求と料金	12%
合計	100%

分野 1: クラウドの概念

- 1.1 AWS クラウドの概念とその価値提案について説明する
- 1.2 AWS クラウドエコノミクスの特徴を説明する
- 1.3 多種多様なクラウドアーキテクチャの設計原理を定義する

分野 2: セキュリティ

- 2.1 AWS の責任共有モデルについて理解する
- 2.2 AWS クラウドのセキュリティとコンプライアンスに関するコンセプトを理解する
- 2.3 AWS のアクセス管理機能を特定する
- 2.4 セキュリティサポートのリソースを特定する

分野 3: テクノロジー

- 3.1 AWS クラウドにおけるデプロイと運用の方法を理解する
- 3.2 AWS のグローバルインフラストラクチャについて理解する
- 3.3 AWS の主要なサービスを識別する
- 3.4 テクノロジーサポートのリソースを特定する

分野 4: 請求と料金

- 4.1 AWS のさまざまな料金モデルを比較対照する
- 4.2 AWS 請求と料金に関連した多様なアカウント構造を認識する
- 4.3 請求サポートに利用できるリソースを特定する